



安城市議会議員 石川つばさ通信 号外

市政レポート

請願「老朽原発を廃炉に」 安城市議会は反対多数

12月議会では、「老朽原発の廃炉に関する意見書の提出を求める請願」が提出されました。地方自治法によって、地方議会は賛成多数となれば、国や県に対し意見書を提出することができます。今回の請願は、40年を超える老朽原発は延長を認めず、全て廃炉にするよう国に意見書を提出してほしいという内容でした。

しかし、付託された総務企画常任委員会では不採択（つまり反対）が多数を占めました。出された主な理由としては、

- ・ 2030年の電源構成を政府が発表した、そこに原発も含まれている。
- ・ 安定供給には納得できる。
- ・ 廃炉も着実に進んでおり、一律廃炉は拙速。
- ・ 独立性の高い原子力規制委員会が新基準に基づき厳正に判断している。
- ・ CO2や経済を含む国民生活への影響を考えるべき。
- ・ 再生可能エネルギーが整わなければ供給体制を変えることはできない。
- ・ 中東にエネルギーを頼っており、紛争などあれば産業に影響が出る。
- ・ 基準をクリアした原発まで廃炉にするのは反対。
- ・ 世界一厳しい規制委員会は信頼できる。
- ・ 「危険だから廃炉」には同意できない。

などが挙げられました。結局、最終日の議場採決も委員会採決と同様の結果となりました。委員会を傍聴された提出者からは、「もう少し命の側面から考えてほしかった」という感想が聞かれました。

なお、本請願に対する私の考え方は、最終日に行った討論をそのまま次ページに記載しますので、そちらをご覧ください。

石川つばさ事務所 安城市住吉町荒曾根 1-245 アワーズビル 2F 南

電話 0566-98-6932 メール ishikawa2011@aria.ocn.ne.jp

編集：石川つばさを支援する会

請願賛成討論

私は本議会に提出されました請願第2号「老朽原発の廃炉に関する意見書の提出を求める請願」について採択すべきという立場でありますので、議員各位におかれましては本討論趣旨にご賛同下さいますよう、よろしくお願い申し上げます。

本請願は総務企画常任委員会で不採択とされました。その時に出された主な意見に対し何点か指摘いたします。まず、不採択の理由として多く聞かれたのがエネルギー安定供給論です。つまり、原発が無ければ電力供給がまかなえない、またはその恐れがあるという指摘です。これについては論より証拠で、国内原発稼働ゼロで約2年間大停電を起こすこともなく過ごした実績があります。まずその現実を直視すべきです。

次に、その穴埋めとして火力の比重が高まればCO₂の排出が増えるのではないかとこの指摘に反論いたします。もちろん、CO₂排出は抑制されるべきですが、天秤にかけた時、CO₂排出と放射性物質排出、どちらがより抑制されるべきかは議論の余地のないところで、排出されたCO₂を減らす方法は、小学校4年生で習いますが、排出された放射性物質の処理方法は誰にもわかりません。したがって、CO₂をもって40年廃炉に反対するのは論拠として脆弱です。もちろん、恒久的に火力に頼ればよいとは思っておらず、委員からも指摘のあった再生可能エネルギーの促進については当然行うべきものと思います。その上で、再生可能エネルギーが十分に普及するまでの繋ぎ役は、原発ではなく、CO₂対策を行った上で火力に比重を置かざるを得ないものと考えます。

次に、世界一厳しい安全基準をクリアした原発であれば問題ないとの指摘もありましたが、この世界一厳しい安全基準という言葉自体が独り歩きをした言葉にすぎません。第二の安全神話とすら揶揄されています。前原子力規制委員会委員長・田中俊一氏はこの安全基準について、「世界最高水準とか世界最高とかいうのは、やや政治的とか言葉の問題なので、具体的ではないのですね。」と発言しています。さらに、安全基準の信憑性が著しく低下したのが神戸製鋼のデータ改ざん問題です。関西電力大飯原発は、安全基準を満たし、来年一月にも再稼働する予定となっていました。ところが、データ改ざんされた恐れのある部品の安全確認に時間がかかるとして、再稼働時期を遅らせると発表しております。世界一厳しいと謳う安全基準をもってしても、データ改ざんによる部品問題を見抜くことが出来ませんでした。よしんば、部品の性能に結果的に問題が無かったとしても、一度合格としたものを改めて安全確認しなければならないとなれば、一度目に出した「合格」の信憑性は地に落ちます。こうしたことから、世界一厳しい安全基準なる「第二の安全神話」を盲信することは、老朽原発廃炉を求める声を退ける論拠とはなりえません。

以上、委員会での意見に反論する形で、本請願を採択すべき理由を申し上げました。議員各位におかれましては、本討論趣旨にご賛同下さいます様、よろしくお願いいたします。